

<第3時>「公平について考えよう」

○事例を通して、障害の有無にかかわらず一緒にスポーツを楽しむことができるよう、どのような工夫ができるか考える。

<第4～7時>「パラリンピックについて、もっと詳しく調べてみよう」

○パラリンピックの学習を通して考えたことを整理しながら、自分の興味のあるパラスポーツについて各自で調べ学習を行う。

<第8～10時>「調べたことを発表し合おう」

○学んだことを学習発表会で発表する。

・体の不自由な方の生活とそれを支える道具

「パラリンピック」の「見どころ」「ルール」「選手」「工夫」

<第11～17時>

「パラリンピアンやパラスポーツ選手との交流の準備をしよう」

○パラリンピアンやパラスポーツ選手との交流があることを伝え、校内にどのような困難があるかを探し出したり、見つけた問題点の解決策を考えたりする。

<第18・19時>「パラスポーツ選手(車椅子バスケットボール)と交流しよう」



○車椅子バスケットボール元日本代表の福澤翔さんとの交流会を実施する。

(コロナ以前よりの交流のため、北九州市障害者スポーツセンター「アレアス」さんに依頼)

- ・一緒に車椅子バスケットボールをプレーしたり、福澤さんの障害についてのことや競技の楽しさなどについて話を聞いたりする。
- ・福澤さんへのお礼状を作成し、送付する。

<第20・21時>「パラリンピアン(アーチェリー)と交流しよう」



	<p>○ パラリンピック・アーチェリー日本代表の重定知佳さんとの交流会を実施する。</p> <p>(一昨年度よりの交流のため、所属の榊林テレンプ様に依頼)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アーチェリーの道具やメダルに触れたり、重定さんの生い立ちやパラリンピック競技の楽しさなどについて話を聞いたりする。 ・ 重定さんへのお礼状を作成し、送付する。 <p><第22～24時>「学んだことを伝えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パラスポーツを体験して、今まで学習したことを踏まえて、パラスポーツの魅力や工夫に迫る。 ○ 学んだことを実際に伝える。 ・ 学んだことをまとめ、体の不自由な人とともに生活するためにできることを下級生(3年生)に伝える活動を行う。
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「パラスポーツ体験」活動などを通して体の不自由な方の思いを知ることができ、支援を行なうことの大切さに気付いた記述や発表が見られた。 ○ パラリンピアンやパラスポーツ選手との交流を行う中で、ルールや道具を整えることで障害のある人も変わらずに取り組むことができることに気づくことができた。 また、選手と間近で接することで、そのすごさを感じるとともに、親近感を持つことができた。 ○ 継続してパラスポーツに関する取り組みを行う中で、児童のパラスポーツへの興味も高まってきた。
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラリンピアンやパラスポーツ選手に実際に来ていただいて子どもたちと触れ合っていたことで、パラスポーツはもとより、パラそのものを身近に感じる事ができた。 ○ ボッチャやボールゴールの道具など、様々な道具を活用し、児童が体験をとおして学べるようにした。 ○ 個々で調べ学習を行い、学んだことを発表する場を設定したことで、意欲をもって交流会に取り組むことができ、また、学んだことをさらに深めることができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流会に来て下さるパラリンピアンやパラスポーツ選手との打ち合わせがぎりぎりになり、日程調整が難しかった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5学年における総合的な学習の時間に「障害者理解」を位置づけ、地域にある「北九州市生涯スポーツセンター」「リハビリテーション病院」等と連携しながら、学習を進めていく。 ○ 地域でパラリンピックスポーツに携わる方々との交流しながら、「パラリンピック」や「パラリンピックの競技者」また、「障害者」に対する理解を深めていく。